

## 巻頭言

校長 宇都 尚美

新学習指導要領の実施、大学入試改革、ICT教育、働き方改革、コロナ禍の教育活動への対応など、ここ数年間でかつてない改革が教育現場に求められています。本校でもコロナ禍の2年間、様々な課題が次から次へと押し寄せました。新学習指導要領実施に伴う新教育課程の編成及び観点別評価の研究、GIGAスクール構想に基づくICT機器を活用した授業改善、3密を避けた授業の工夫、令和4年度から実施される「通級」による指導へ向けての校内体制づくりなど、答えのない課題に皆が戸惑いました。しかし、令和3年度職員スローガン「学びの炎(ほむら) 消さずに進め チーム奄高」(全日制)、「One for all! All for one! みんなで助け合いながら奄定を盛り上げよう!」(定時制)のとおり、教職員全員で知恵を絞り合ってきました。全員で考えることで、一つ一つの課題を多角的な視点で捉え、深く考察することができたと思います。個々の生徒たちの人間的成長をめざし、お互いに語り合う日々は今も続いています。

フレッシュ研修・ステップアップ研修・パワーアップ研修における研究授業には教科をこえて、多くの教職員が参加しました。授業研究では、「主体的・対話的で深い学び」の視点とICT機器活用の視点、さらに特別支援教育の視点からも活発な意見交換がなされました。何のための対話的な学びなのか、どんな能力や態度を育成するためのICT機器活用なのかといった疑問も投げかけられ、単にグループワークやタブレットPCの活用を取り入れるだけでは意味がないことに気づき、どんな能力や態度を培うために取り入れるのかを考え直す機会となりました。授業で学んだ知識や技能を、生徒自身が自分の人生や社会で生かそうとすることを、教師が単なる将来的な願いにとどめることなく、具体的に指導計画に位置づけ生徒たちに身につけさせていくために、授業の何をどのように改善すればよいのか考えていくことが求められていると思います。今後も、教師がお互いに新学習指導要領の理念を常に語り合って再認識し、各授業の目標と方法を見直していくことで、さらに魅力ある授業づくりに磨きをかけてほしいと思います。生徒たちがこれからの時代をたくましく生きていくために、奄高でどのような能力や態度を育てていかなければならないのか、そしてそれをどのように評価していくのか、これからも学校全体で語り合って考えていきましょう。

臨時休業や教育活動の縮小・中止を何度も宣告されてきた生徒たちは、悔しさや辛さを乗り越えてたくましく前に進み続けました。まずは「よく頑張った」と褒めてあげたい。校内の授業や実習にとどまらず、地域に飛び出して地域で働く大人たちと協働で活動したり、子どもたちや高齢者と触れ合ったりするなど、高校生に今できることを考えて行動してきました。その活躍ぶりから生徒たちの様々な能力には限界がないこと、その良さを引き出すために実践的活動が必要であることを実感しています。5学科と定時制連携・地域協働による「奄美高校レストラン」は本校の魅力ある教育活動として毎年進化を遂げ、本年度5回目を実施する予定でしたが、コロナの感染拡大により中止となりました。来年度実施へ向けて後輩に引き継ぎ、さらなる発展・進化を遂げると期待しています。

この研究紀要「あまみ-第11号-」は奄美高校教職員と生徒の学びの軌跡であり、変革が激しいこれからの時代を切り拓き、地域の発展に貢献する人材を育成しようとする本校の取組の一部です。皆様にお読みいただき御助言や御指導をいただければ幸いです。今後も教師が自己研鑽に励み、生徒は自ら努力しながら教師の指導を受ける、教師も生徒も学び続ける、そんな奄高であり続けることを願っています。最後に玉稿をお寄せいただいた皆様、編集にあられた方々に心から感謝申し上げます。